

平成 27 年第 2 回定例会

大野誠一郎による質疑応答全文（6 月 18 日）

大野誠一郎

通告により一般質問を行います。

二つございます。一つ目は、駅名改称について、そして、二つ目には、市民活動日本一についてでございます。

まず、駅名改称についてを質問いたします。

中山市長は、一昨日の一般質問の駅名改称に関する一般質問の中で、これまで市長自身が、この議会の中でいろいろと発言したことを思いめぐらし、そして、いろいろ答弁しておったわけですが、私が記憶するところでは、やはり昨年 1 月の 2 期目の第 1 回臨時会の所信表明の中での駅名改称に関する発言が公式な発言というふうに捉えております。その所信表明の中で、市長は「常磐線佐貫駅の改称については、当該効果の試算や機運などを見きわめながら、龍ヶ崎市誕生後 60 年来の課題解決に向けて調査検討を行います」と、こういった発言が公式の場の発言であるというふうに私は受けております。

調査検討を行うと、こういった内容でございましたし、今後 4 年間の所信表明のことですから、調査検討を 2 年か 3 年やって、そして、4 年目ぐらいに駅名改称をするのかなと、ある意味これは勝手な私の解釈ではございますが、調査検討を行うということですから、そう考えるのはある意味当然であるかと思えます。

しかしながら、今般、債務負担行為の設定に至ったわけでございます。どのような調査検討をもって、このように至ったのかを説明していただきたいと思えます。

中山一生市長

駅名改称について、所信表明で一步踏み出しますというような意味での私の所信表明でもあったわけでもございますが、その中の文言にありました調査検討ということでございます。

所信表明の後、平成 26 年度当初予算に影響度調査ということで、それにかかる予算を計上し、調査を実施したことは議員ご承知のとおり、その際にも議員の皆様、当時の議員の皆様の議決をいただいているところでもございます。結果につきましては、政策情報誌や市公式ホームページでお知らせをし、周知を図ったところでございます。

また、その調査検討の中には、並行して行っておりましたJR東日本水戸支社との協議でもございまして、そもそもその実現可能性があるものかどうかというところから調査検討をスタートし、JR水戸支社には様々な情報をいただいたり、ご検討いただいたりもしたところでもございます。

私自身、機会あるごとに様々な場面において地域の活性化、産業の振興などによるにぎわいの創出の必要性、そして、このような取り組みの一つとして、これからの龍ヶ崎市、将来の龍ヶ崎新時代のために、駅名改称の必要性を訴えてきたところでございます。それは、過日の答弁でも申し上げたとおりでもございます。

そのような場において、やはり私も政治家でございまして、多くの皆さんの声を聞きながら、機運の高まりを肌で感じたところでもございまして、JR東日本水戸支社との協議の結果、平成 29 年 4 月の改称

が最も経済的に有利であること、そして、現在の市の状況などを総合的に勘案し、事業の推進をすべきであるという決断をして、昨年 12 月発行の政策情報誌第 13 号及び本年 5 月発行の第 15 号などでお知らせをするとともに、意見交換会の開催、あわせて今回の債務負担行為の設定を上程したという経緯でございます。

大野誠一郎

効果の試算、そして、機運を見きわめながら調査検討を行ってまいりたいと、そういう内容でございますので、そういった答弁をお願いしたいと思います。効果の試算、機運の醸成、これをどのように見きわめたのか、答弁をお願いします。

中山一生市長

先ほど申し上げました影響度調査の試算ということもございますけれども、これに関しましては、1 億 6,500 万円の経済波及効果がある。その根拠については、経済波及効果の試算に当たって、茨城県の産業連関表を用いている等々、この議会でも再三、大野議員の質問がありましてお答えをしているところもございます。

まず最初に、昨日の答弁などでも申し上げさせていただいたところでもございますが、この駅名改称に関しましては、私自身、もうこれは確信として将来の龍ヶ崎にとって大きなメリット、もうはかり知れないメリットがあるという信念のもとに進めてきたところでございます。そして、その信念のもと進めるに当たって、影響度調査というものも行ったわけでもございますけれども、この影響度調査をやったわかったこと、今、申し上げたような波及効果等々もございますが、それ以上にはっきりと私自身確信したことは、やはりこの波及効果、影響度、そして、将来の市民に与えるメリットというのは金銭等々試算をして、そう簡単に表れるものではないということがはっきりわかったところでもございます。

そして、以前、この議会の答弁でも申し上げたところでもございますが、やはり今回駅名改称に関しましては、従前のこの駅名改称の動きの中でも、どうしても市民の皆さんの抵抗感として費用の負担の大きさというものがございました。私は、今回それを重く受けとめ、費用負担をなるべく抑制をして、この事業は進めなければならないという思いを強くして進めてきたところでもございます。

そういうことで、この影響度調査に関しまして、必要最小限の予算で計上させていただいたところでもございますが、やはり様々な関係者またはその調査機関、コンサルタントなどと話している中で、このような調査をするには、やはり数千万単位の予算をかけないと、ある程度の一定の試算は出ないというような言葉をいただいたところでもございます。これはこの調査をした後の話でございますけれども、それをなおさらやるのではなくて、私は市民の皆さんはこの駅名改称の効果、そのメリット、そして、将来の龍ヶ崎市民が受けるべきその利益というものは大きいということを、市民の皆さんはご理解をいただいているという上で進めさせていただいているところでもございます。

そういうことで、なおさらでございますけれども、先ほども答弁に申し上げましたように、消費増税の時期に当初申し上げていた費用負担よりも半分近くに抑制できるという機会がはっきりと明らかになったわけでもございますので、その機会を逃すことは、先ほど申し上げました費用負担を抑制する、市民の負担感を軽減するチャンスを逃すことにもなりますので、これが明らかになって、改めてこれはその目標に向けて大きく前へ進まなければならない、そういう思いを強くしたところでもございます。その上で、先ほど申し上げたような

経過をたどったということでございます。

大野誠一郎

効果の試算ということについては影響度調査をしたということで、そしてまた、いつものことながら、はかり知れない大きな効果があるということをおっしゃっております。

やはりこの駅名改称を進めるに当たって、所信表明の中で、効果の試算、機運を見きわめながら調査検討を行う、これは私は非常に重く受けとめたいんです。一番大事なことなんです。当時は5億、6億、今は3億3,000万というようなお話ししておりますが、とにかくにも3億の金を使う。まあ、こう言うのは何ですが、市長、自分の財布でやるんでしたら結構ですよ。これは紛れもない血税でやるわけです。市民の血税ですね。その中で、そういった効果の試算や機運を、醸成を見きわめながらやるべきところ、そのとおり言っているわけですから、言ったことをきちんとやって、そして、市民の合意を形成していくと、こういった作業が全く省かれていると、私はそう言わざるを得ないんです。

影響度調査1億6,500万の経済効果があるというお話が出ました。この1億6,000万の多く、大部分は商業祭りの6万人程度の規模のイベントを開催した場合、1人1,000円の消費をしたとして6,000万円、それから、もう一つの大きな金額については、平時の経済効果として、現在の佐貫駅を使って乗降する乗降客、これが平成22年度の国勢調査の段階で1,543人いますと、通勤客が1,180人、通学者が363人、この乗降客の多いのが近隣、牛久市からの乗降客が多い。したがって、佐貫から牛久までの定期の乗車券1年間を掛けたら7,500万ですと。つまり先ほどの商業祭りの6,000万と、この平時の佐貫駅、これが7,500万、それが先ほど市長がお話しされたような茨城県の産業連関表を用いると1億6,500万になると。私これ納得いかないんですよ。

参考までというわけで、私は商工観光のほうにお話ししてありますけれども、通常の商業祭り、6万人来てますよという商業祭り、あるいは今回コロッケ日本一になりました。この経済効果、どうなんですか、答弁願います。

加藤勉市民生活部長

市のイベント等の経済波及効果については、来場者による消費が出店者の事業所得を増加させることで経済効果をもたらすと認識しております。

また、イベントに対する直接的な支出以外にも交通機関の利用者増加や出店者の宿泊、食材の仕入れ等による効果も期待されますことと、来場者の方々に当市の魅力を知っていただくことができる機会ともなっております。さらに、社会的効果として観光PRや当市のイメージアップにもつながっていると考えております。

昨年度、Yahoo! JAPAN特集第2回ご当地メシ決定戦で優勝いたしました龍ヶ崎コロッケにおきましては、市内外から多くのお客様が訪れており、来街者の方々に当市商店街及び各商店の存在を知っていただくことができる機会ともなったものと考えております。

大野誠一郎

部長にもう一度質問します。

今お話ししていますのは、商業祭りが6万人、ここで1,000円の消費額を掛けたら6,000万というこ

とになっています。そういう意味での経済効果はどうなんですかというお話です。

加藤勉市民生活部長

先ほどの商業祭りと同様に、これは一つ、コロッケフェスティバルで茨城県の産業関連表を用いて、同様な方法で算定した場合の経済波及効果についてです。

経済波及効果の分析を行うに当たっては、まずは必要なデータをもとに最終需要額を把握する必要があります。そのためには様々な前提条件や仮定を置く必要があり、コロッケフェスティバルの最終需要額を葉師市商業祭りの前提条件などと同様の方法で算出する必要があると思われます。

なお、コロッケフェスティバルの来場者数 5 万人を想定し、1 人当たりの消費単価を 1,000 円として計算をいたしますと、推計値 5,000 万円を最終需要額として考えることができます。

大野誠一郎

要は商業祭り、あるいはコロッケ日本一では算定できない。したがって、コロッケフェスティバルの 5 万人を例にして 5,000 万ですと、部長、実感あるの？ 5,000 万円の経済効果、コロッケフェスティバル、あるんですか。

なぜそういうことをお話しするかといえば、先ほど紹介したような影響度調査の中にも 1 億 6,500 万、これはある意味、社会的な経済効果なんです。特に平時の佐貫駅の 7,500 万、これはJRに入るお金でしょう。龍ヶ崎市が 3 億 3,000 万かけて駅名改称する。その龍ヶ崎市に対する経済効果の試算をするべきではないでしょうか。何のための効果の試算ですか。

効果の試算をするということでもって市長が所信表明で言っているから、私は聞いているんです。当然そこから考えれば、私にしてみれば何の効果の試算したんですかと、はるかに大きな効果がありますと、これだけです。何の根拠もない。こういったことを効果の試算については言っておきたいと思います。

機運の醸成、これは市長が何回も言っております。「私は事あるごとに、そういった駅名改称の必要性を訴えています。お話しをしております。あるいはマニフェストに書いてありました」、それで市民の皆さんの機運が醸成したんですか。私は非常に疑問でありますどころじゃなく、何をやっているんですか。何もやっていないんじゃないんですか。

市長も知っているように前市長のときにアンケート調査をしました。「駅名はこのままでいい」という方が 6 割、「変えた方がいい」というのが 4 割、そしてもって前市長は合意形成をする必要があると、そういった中で終わってしまったわけですが、その問題を、つまり駅名改称問題をこれからやろうとするときには、そのハードルを越えなくちゃならないでしょう、全然真っさらじゃないんですから、もうそういう結果が出ているんですから。それは人によっては、あのアンケートはあんまりよくないよ、内容がよくないよと、そのように誘導した内容だよと言うかもしれない。しかしながら、それは厳然たる事実ですよ。市の公費を使って大々的にやった内容なんですから、と私は思うんです。先ほどの答弁でも私いただいております。市民の機運を醸成する手だては、これまでどんなことしたんですか。答弁願います。

中山一生市長

機運の醸成ということでもございますけれども、今ほど串田市長時代のアンケートのお話がございました。私は、そこで明らかになったことは、やはり最大の乗り越えるべき大きな壁は、その費用負担の大きさであ

るというふうに、そういう結果であったというふうには私は認識しております。やはり改革をしよう、変えようとするときには、やはり変えないほうが良いという意見が出てくるのは、これは当然のことでございます。

その中で、私がこれまでの過日の答弁でも申し上げましたが、公職についてから有権者に信任を得てからもそうです。それ以前からもそうですけれども、自分自身が肌で感じた感覚、そして、自分自身の信念、それらを勘案し、その中で多くの市民の皆さんとお話しをしてきたところでもございます。もちろん反対の意見の方からも意見を伺ってきたところでもございます。さらには、この取り組みを大きく歩み出してから、所信表明の直後には、所信表明の前にもあったかと思いますが、私が当選後の取材をマスコミから受けたときに、駅名改称の話をして、それがすぐさま新聞記事等で取り上げられたこともございました。そしてまた、これまでの経緯の中でも新聞報道などの効果は大きかったのかなというふうに考えているところでもございます。

そして、この議会の中、市民の代表の皆さんが集まる議会の中でも、大野誠一郎議員はこのことに高い関心を示していただいて、何度も質問いただいて、その際、そのたびに私も丁寧に答弁をしてきたところでもございます。これは今、議事録は公開しておりますし、なおさらインターネット配信を始めたこの龍ヶ崎市議会でもございます。「私も昨日、インターネット配信見てたよ」という方からお声をいただきました。その際にも、「ちょっとあの答弁長かったね」と苦言を呈されたところでもございましたけれども、なるべく長くならないようにお話をさせていただきたいと思いますが、影響度調査を議会にかけて議決をいただいたことも、その一つだと私は思っております。

その中で影響度調査に関しましては、大野議員、本当にこれに関しては大変注目をされていて、これまでも議会の中で何度も質問、答弁をさせていただいたところですが、これに関しては先ほど申し上げましたように、いかにこの経済効果を金銭でかえることの難しさを表しているということを私もよくわかったことでもございますし、特に例えば先ほどのコロッセフェスティバル一つとっても、市民の皆さんが、「ああ、おいしかった、楽しかった、すごくいいイベントですね、今日は楽しい気持ちでうちに帰れますよ」、それをどんなふうにしたらお金にかえられるんですか。私はそれが一番の効果だと思いますし、市民にとって明るい気持ちになったというのは、これ以上のはかり知れない効果はないかと思います。

大野議員も毎年行われているアグリフェスタでたくさんの集客を得ている。その経済効果はどうだと聞かれることは、もちろんないとは思いますが、多くの皆さんが喜んで帰られる。その効果は、やはり金銭にかえがたい大きな効果があると私は考えております。

そのような効果をこれから半永久的に得られる。そして、この駅名に関しましては、新たな駅名に龍ヶ崎市民全員が自分たちのまちの駅という愛着を持てる。愛着や誇り、これも金銭にはかえられないことでございます。佐貫地区の皆さんが佐貫の駅に大変強い愛着を持っている。あえて私は意見交換会のときにも言わせていただきました。「その皆さんの愛着が強いのであれば強いほど、どうぞ、その皆さんの愛着を龍ヶ崎市民と分かち合っていただきたい。これは龍ヶ崎のための取り組みでありますので、どうかご理解、ご協力をお願いします」ということを申し上げたところでもございます。

そういうことで、私は機運醸成ということに関しましては、今回、最大のハードルであると考えていた費用負担が半分程度に抑制できるということがわかりましたので、そういう意味では、これを含めて機運醸成はもう機を熟したというふうに考えておりますし、ただし、先ほど申し上げたように佐貫地区の皆さんをはじめ、まだまだ反対意見の方がございます。その反対意見の方々には一人ひとりと対話をしてでも、私は一人でも多くの理解者を得て、合意形成をさらに深く図ってまいりたいと考えております。

大野誠一郎

市長ね、簡潔明瞭に答えていただきたいと思います。それから、質問の内容をよく考えていただきたいと思います。

私は効果の試算は先ほどの質問で終わりました。そして、私が行っていますイベントのこともお話出しましたが、けれども、この効果の試算というのは私が言ったのではなくて、市長が言ったんです。効果の試算を調査研究したいということを言っているものですから、そして、これがゴーサインなんですよ。市長が駅名改称にゴーサインは何も出していないんです、私に言わせれば。前回の3月で、この所信表明がこの市議会の壇上から私はゴーサインを出したと言っていますが、ゴーサイン出してないんですよ。調査検討を行いますという所信表明の内容なんですよ。もし、何だったら後で議事録見てください。ゴーサインなんか出していませんから。ですから、何度も言うように効果の試算を調査研究をするということから、効果の試算はどうだったんですかと、そういう話なんですよ。

そしてまた、市民の機運の醸成、これも見きわめたいということでした。金額が半額になったから、皆さん納得してくれるだろうと、そういう問題ではないんです。市長は、先ほど市長の所信表明の中でこんなこと言っているんですよ。「市民の皆様と情報を共有し、対話と参加による信頼を基礎に、協働による地域経営を推進しております」、そしてさらに「市政の基礎的な取り組みについてご説明申し上げます」、その一つ目が、「情報の共有、対話と参加による信頼を基礎とする地域経営ということであります。そのため、プロセスをより重視した市政運営としてまいります」、こういったことを言っているんです。

ですから、私が聞こうとしている内容は、つまり市民の機運が醸成したんですかということとは、市民の対話と市民参加による地域経営をやった結果、機運が醸成しましたということでしたらわかるんです。同じ意味で言っているんですかね、この対話と市民参加は、それを基礎とするんだと、そしてまた、それが市民の信頼を得るんだと。ですから、どういうことをしたんですかと、はっきり言えばやっていないのではないですか。市長どうでしょう、答弁願います。

中山一生市長

私は過日の一般質問でも申し上げたところですが、これまでも様々な場面で数多くの皆さんに、この問題提起をして投げかけてきたところでもございます。そこに関しましても、時間が許す限り意見交換もしてきたところでもございます。もちろん不特定多数であったことは当然でもございますけれども、そういう意味では、そんな中でもやはり様々な意見があったのも事実でございます。確かに機運醸成というのは大変難しいことは、これは大野議員も市民の皆さん、有権者の皆さんと対話している中で大変難しいものであるということは、もう私以上にご理解をされていらっしゃると思います。

そして、そういう意味で私も過日の答弁で申し上げたとおり、やはりこの問題提起、串田市長時代のアンケートもサンプルはやはり一部の市民でもありましたので、全市民にまでは私はその問題提起が行き届いてなかったなと感じたのは、やはりあれからまだ数年しかたっていないわけでもございますけれども、市民の皆さんの中にはこの問題そのものを知らない人がまだまだたくさんいた。これは今回この話を機運醸成を進めていく上で、私もある意味、驚きを持って受けとめたところでもございます。そういう意味で、やはり大野議員おっしゃるとおり機運醸成 100%の市民の皆さんにこれを理解していただくという、その高い目標に対しては、まだまだ私は十分でないと思っております。だからこそ、これからも対話を続け、また、機運醸成に努

めていかなければならないと思っております。

そういう意味で、意見交換会でも大変関心の高さが明らかになったところでもございますが、私自身、これ政治家として一つのメディアというものの役割の大きさというものは強く感じているところでもございますので、今回のこの駅名改称の取り組みは私が所信表明をしたときから続けて、大変マスコミの関心が高いところでもございます。今日もマスコミの方が取材に来られていらっしゃいますけれども、ここのところ、意見交換会の前後から毎日のように、このことに関しては新聞等で記事に載っているところでもございます。

そういうことで新聞等を見た市民の皆さんから、また新たな様々な声をいただいているところでもございますので、そういう意味を含めて、ここに来て、その機運醸成のその深さも大分深まったのかなというふうに考えているところでもございます。

大野誠一郎

市長、ちょっと認識が違いますよ。ある意味間違っています。なぜかと言うなら、私は市民の対話と市民参加を、この所信表明以来、駅名改称についてどのようにやってきたんですかというような質問をしているんです。市長は、今の答弁は、冒頭お話ししましたとおり、市長は、いろいろな会合とか、そういった事あるごとに話していますよと、この会合ってどういう会合なんですか。そういった、この間の意見交換会のように、駅名改称に関する意見交換会、こういうことじゃないでしょう。

私はある人に言われました。医師会の先生に言われました。ですから、恐らく竜ヶ崎・牛久医師会の中でお話したのか、竜ヶ崎だけの支部というか何か、そういうものでお話したのか私はわかりませんが、「うん、市長はそういうことを言っていたよ」、そういう話を聞きました。それから、察すれば、恐らく何らかの会合で市長としてご招待をしたり、そしてまた、その中で挨拶をすると、そういった中でのお話じゃないでしょうか。違っているなら違うんで答えていただければいいんですが、私がいつも市長からそういうお話を、他の議員が質問したときもそういうお話ししますが、「事あるごとに皆さんに提起しています、お話ししています」、私が言っているのは、市長が所信表明で述べている市民の対話、そして、市民参加、そして、さらには市民と行政による協働のまちづくりと、それから、まちづくり条例をつくりますと、何のためにつくったんですかと、それに基づいた市民との対話、そして、市民参加をすべきでしょう。それが全然なされていない。

今回の議会で市長が経過説明をしました。その中で大変驚きました。何が驚いたのか。先ほどの影響度調査は昨年3月議会で可決されました。私は反対しましたし、反対した議員の方もまたいるかと思っています。しかしながら、先ほど言う、効果の試算をするということでもって影響度調査を実施したのではないかと思います。この影響度調査が報告書としてでき上がったのは9月です。しかしながら、せんだっての市長の経過説明の中で、6月にJR水戸支社でしょうかね、JRのほうへ訪問しました。市長が行ったのかどうか、これはわかりません、私は、ただ、そのときには誰が行ったという話はしませんでしたかね。それから、8月には依頼書を持ってきました。これは何なんですか。例えばどういうことで訪問をし、どういう依頼書を出したんですか。答弁願います。

中山一生市長

この件に関しましては、先ほども大野議員の質問に答えて答弁したところでもございますが、その調査研究の検討の中には、そもそもJR水戸支社と協議する中で、駅名改称が可能なのかどうかというところからスタートしたわけでもございます。この点に関しましては、実はそれ以前から基礎的な聞き取り等々はして

いたわけでもございますが、やはりJR東日本、そして、水戸支社が直接の窓口になるわけですが、そのJR東日本は日本の誇る大企業でもございます。その大組織に対しての交渉でもございますので、様々な手続が必要、さらにはやはり時間もかかるということもございまして、大変その進捗については我々も大変戸惑いを感じたこともあったのが事実でございます。

そんな中で、今、依頼書等々の話でございますけれども、やはり何度も足を向けて、これに関しましては龍ヶ崎市として自治体の駅名をJR東日本、民間企業ではございますけれども、JR東日本にお願いをするという取り組みでありますので、それをはっきりと宣言をして、そういうことで社内でもこの問題について進めて、議論を進めて、協議を進めてほしいということで行った行為でもあるというふうに認識しております。そのようなプロセスを経て、実際に実現可能性、さらには今回の費用負担の抑制などの情報がJR水戸支社からも、JR東日本も含めてもたらされたという経緯だとご理解いただければと思います。

大野誠一郎

市長は、調査研究のために協議を始めたというような内容かと思います。しかしながら、私、情報公開でいろいろな会議の会議録というか会議でんまつ書をいただきました。3月の議会の前には情報公開をお願いしましたところ、「何もない、駅名改称に関する会議録は何もありません。したがって、情報公開を請求されても困りますので、情報公開請求はしないでください」、「いやいや、何もないという答えでも結構ですから、出したいんです」と、「でも、ないものはしょうがないんだから出さないでください」ということで、私はやめました。

しかしながら、今回、じゃ、その後のものが何かあるであろう。つまり5月には覚書をしたということですから、あるであろうということでやまして、しかしながら、3月以後ということは書かないで、とにかく、これまでのものについては全て出してほしいということで出たものが、辛うじて出たものが、今、質問しました訪問の頃のお話です。ただ、この会議でんまつには訪問したのはJRなんですね。件名が「佐貫駅名称についての訪問」、6月20日2時15分から3時までの45分間で、3階の第1会議室にJRの部長方、室長方、そして、市のほうとしては副市長、松尾総合政策部長、宮川企画課長、その中で副市長は、佐貫駅の名称について「龍ヶ崎」を冠した駅名に改称していただきたい旨の依頼をしたと、このように発言しています。もうこれは調査研究の段階ではなくて、全く駅名改称をしていただきたい旨の依頼をしたんですから、先ほどからお話ししているような、市民との対話、市民参加をやっていく、そういうことは全然違う次元ですよ、これは。市長、説明をお願いします。私の、これ事実じゃないんですか。

中山一生市長

依頼書ということで、先ほども私、申し上げました。龍ヶ崎市が自治体として自治体のついた駅名に民間企業であるJR東日本、そして、水戸支社が窓口でしたが、水戸支社に対して駅名改称をお願いをする。こういう今回の取り組みでございますので、そして、これを進めるに当たりまして、まずはその可能、不可能、実現可能性さえもやはり進捗をしていかないと、なかなか見えてこないところがございました。そして、この社内での協議を進めていくためには、依頼書を提出ということが一つのプロセスであるということがわかりましたことから、であれば依頼書を提出するというプロセスをとった。先ほど答弁したとおりとなってしまいますが、そういう経過でございました。

川村光男副市長

先ほどのお話の中で、情報公開に関する文書はないから情報請求はしないでほしいとお話ございましたけれども、今年2月の大野議員からの情報公開請求につきましては、影響度調査における仕様書の内容を決定する際の議事録についての請求でございましたから、そうした議事録は作成していないことから、公開する資料はないと申し上げたもので、今回請求されたような駅名改称に関する議事録という請求ではないことを申し上げておきたいと思っております。

それから、依頼書の件でございますが、当初、駅名の改称につきましては、東日本旅客、水戸支社です、JR水戸支社と駅名改称に向けて、どのような手続を進めていけばよいのか、そして、費用はどの程度かかるのか、いつなら経費の削減ができるのかなどにつきまして訪問したり電話などで問い合わせや協議を行ってまいりました。そうした中で、JR東日本水戸支社と社内で正式に検討するためには、本市から依頼書の提出が必要となるということから、本市がなぜ駅名を改称したいのか、その理由を添えて昨年8月に依頼書を提出いたしましたものであります。

大野誠一郎

今の副市長の情報公開請求、私まだ書かないでほしいということでしたから書いてないんですが、なぜその影響度調査における議事録だけという形でもって件名を、そう表現なさるのか私にはわかりません。私はいつもそうですが、それらに関する一切の書類という形で書きますもので、そういうわけと言うなれば「影響度調査を重点とした駅名改称に関する一切の件」というふうに書くつもりでおりましたから、そういう書類は残ってないわけです。恐らく担当した職員の方に聞いただけのお話でしょう。そういうことで、私はそういうことは書いておりません。それが1点。

それから、もう一つ、協議の内容について、これからどうしたらいいかということをやっていたということでございますけれども、先ほど質問した依頼書、8月、その依頼書の内容はどういう内容なんですか。

川村光男副市長

依頼書につきましては、8月7日にJRに提出しておりますけれども、この内容につきましては、駅周辺を含む西部地域の活性化を目指しまして、環境整備等の取り組みをより一層強化したい、そして、地域を活性化させ、持続可能な地域経営とするために、まず当市の知名度向上が課題でありまして、市の名前と駅名を統一したい旨の理由で依頼を行っております。

大野誠一郎

言うなれば、統一したいということは、駅名改称をしたいということですよ。

それから、先ほど議事録を紹介しました。副市長が駅名改称したいというようなことを発言している。もう内容、中身に入っているでしょう、ありきでしょう、駅名改称ありき。そういったことをお話しします。

それから、先ほど市長がJRとのプロセスを大事にしていきたいというような内容かと思えます、答弁としてですね。

そこで、私が一貫して言っているのは、市民とのプロセスは一体どうなっているんですかということをお話しているわけです。それが中山市長は正直言って抜けている。ですから、話が合わないんです。答弁が合わないんです。JRのプロセスは大事にしている。じゃ、市民とのプロセスはどうなっているんですか。それが市長が

所信表明で自分の基本姿勢として、地域運営として市民との対話、市民参加を大事にしていくんです、そういう中で市民と行政が信頼関係を持ってやっていくんですよと、同じに言っているんですよ。これが抜け落ちるということは、市長が言う所信表明の柱が抜けるということなんですよ。大事なことなんですよ。ですから、言っているんです。

これまで質問した中で、やはり効果の試算とか、そういった市民の機運の醸成というものは非常に乏しいというふうに私は感じます。

それで、つけ加えてなんですが、こういうことを26年、去年の6月定例会の私の一般質問、駅名改称の問題に対して、「駅名改称の取り組みに当たりまして、市民参加、そういったものは考えていないのか、ひとつお尋ねいたします」と質問したところ、松尾部長が答弁しております。いわゆる影響度調査と絡めて質問したわけですので、松尾部長は、影響度調査につきましては、「もちろん市民の皆さんとの駅名改称に関する議論を、より深めていきたいというような考え方から実施するものでございます。調査結果につきましては、市民の皆様にももちろん公表した上で、駅名改称に関するご意見をお伺いしてまいりたいというふうに考えております。具体的な方法につきましては、調査もこれからということですので、今後検討してまいりますけれども、対話と参加、納得性を考慮したものにしていきたいというふうに考えております」、影響度調査が終わった後に、そしてまた、公表した後、どんな、どういった対話と参加、そしてまた、納得性を考慮したものを講じたのかお尋ねしたいと思います。

松尾健治総合政策部長

まず、影響度調査につきましては、去年の9月にまとまりました。それと並行いたしまして、JR東日本水戸支社とは協議を続けておりましたので、その影響度調査、それから、JRとの協議内容等について市民の皆さんに、どういうタイミングで、どういう方法でお知らせすべきかといういろいろ模索をしてまいりました。そういった中で協議の関係もありまして、なかなか具体的なことを申し上げられませんでしたけれども、12月の政策情報誌におきまして、その駅名改称をしようとする目的、背景、それから、具体的な駅名の候補、それから、この影響度調査等についてお知らせをするということで掲載いたしました。この政策情報誌につきましては、ご存じのとおり全戸配布でございますので、やはり皆さんに知っていただくためには、こういう文書で全戸配布という形をとるのが最もいいということで政策情報誌に掲載したところでございます。

その後、1月に市長と馴染地区のまちづくり協会の方々の意見交換会がありましたので、その際にも、市長のほうからこの駅名の改称について現在、作業を進めています、考えていますというようなお話をさせていただいたというふうに認識しております。

それから、具体的な意見交換については、ご案内のとおり5月、それから、6月、計4回ほど実施したということでございます。

それで、この間、5月の政策情報誌においては、駅名改称の具体的な費用、それから、駅名の候補、時期についてもお知らせしなければならないということで、これにつきましても、実際には4月に原稿をまとめたわけなんですけれども、5月発行の政策情報誌に掲載しまして、これについても全戸配布したと、そんな状況でございます。

大野誠一郎

松尾部長、政策情報誌はお知らせなんです。先ほど松尾部長の答弁の中に、市民との対話、そして

市民参加、納得性のあるものやっていきたいというふうに言っているんですよ。これがなされてないんじゃないんですか。

時間もありませんので、今度は市長にお話ししたいと思います。

市長が、やはり市民対話と市民参加も言っているんですね。市民と行政の協働のまちづくりはどうなんだというような私の質問に対してなんですが、「先ほどご指摘があったような、みんなで考え実践する協働のまちづくりというのは、私の市政運営にとっても大切な根幹でもございますので、この佐貫駅の駅名改称の議論の際にも、この姿勢は貫いてまいりたいと考えております」、市長が言ったことなんです。議事録に、私の質問に対して、質問も一生懸命考えて、それに中山市長も一生懸命、誠心誠意答えてくれた答弁なんです。

これ一番新しい議事録で3月です。やはり駅名改称の質問の答弁なんですが、少し長くなった、それはちょっと省いて、一番最後の1行だけを読みます。「先ほどおっしゃられた質問の内容ですが、これからも私も一生懸命、自分自身の政治家としての生命をかけながら、市民の皆さんにも対話を進めてまいりたいと考えております」、これだけのことを言っているんですよ。本当にその場しのぎの答弁なんですかと言いたくなるような答弁ですよ。この駅名改称の問題に関して、何ら市民との対話、市民参加をしないで、片や一方、協議をしていく。そして、5月には覚書が交わされて、その5月の覚書が交わされる前ですから、市民との意見交換会、城ノ内と龍ヶ崎のコミュニティセンターですね。それから、6月6日の馴染、久保台ですか、全く先ほども言ったように市民とのプロセスを欠いている、省いている。

こういったことに関して市長は、何か誤解があったとか、いろいろ言っておりますけれども、責任を感じてないんですか、こういった言動、私は感じるべきだと思います。ひとつ答弁を願います。

中山一生市長

対話ということでございますけれども、先ほどからその点で欠けているのではないかというご指摘でございます。

最初に、冒頭に申し上げましたけれども、やはり全ての8万市民の一人ひとりに理解をいただくことの難しさは、やはり今、そういう意味ではまだまだ努力が足りないという気持ちはございます。

しかし、やはりこれまで対話は私は様々な形で、先ほどいろいろな場面場面で多くの皆さんに語りかけ、場合によっては対話もすることができた。例えば、10人、20人の会合でも、私はなるべくこのことについては話を触れながら、そしてまた、懇親会などがある場合には、そこでそこにいる、場所にいる全員の皆さんからいろいろなご意見をいただくこともできました。大野議員もご一緒させていただいた、大宮地区の区長会でもそういうことがあったと私は記憶をしております。それは一例でありまして、様々な会で多くの皆さんと私はこの問題提起についてお話をさせていただきましたし、また、時間的な余裕があれば、たくさんの意見をいただいたこともございましたし、様々な場面でご意見をいただいていたところでもございます。

私は政治家であります。大野議員も同様かと思いますが、日常生活の中でもたくさんの人とお話しをする機会があります。その中でもやはり様々な意見をいただくわけでもございますので、その点に関して欠落をしていたというのは、私はそのような認識は持っておりませんし、対話を進めてきた。ただし、先ほど最初私が申し上げたように、まだまだ対話は進めていかなければならない。

そして、先ほど誤解を生むようなという話がありましたが、もし、住民の皆さんに、市民の皆さんに誤解を生むようなことがあったのであれば、それは本当に申しわけないことであると思います。ただし、事が性急に

感じられる方もいらっしゃるかもしれませんが、今年の 12 月の総選挙で、これはもう前回申し上げましたが、あえて繰り返しますが、消費増税を平成 29 年 4 月 1 日、本年 10 月に予定されていたものを政策として、そこで実行しますというマニフェストで選挙をやられて、今の自公連立政権がまた誕生したわけでございます、安倍政権が。その中で決められた、その日付、今年の暮れですよね。政権が本格的に始動したのは年が明けてからだったような記憶がありますけれども、その中で国会審議も始まりまして、その中でJRが真摯に対応してくださって、その消費増税のときであれば費用を半分程度に抑えられますよというのが情報が入ってきたのが春でございます。春になってからの情報で、しかも、その中でもJRは真摯に精査をしていただいて、こういうことであれば、この方向で進めるのではないかということがはっきりわかった段階で、先ほど政策情報誌、4 月に編集したと部長からの答弁がございましたが、急ぎ、政策情報誌を作成し、市民にその広報紙を見ていただく努力と、あと意見交換会を取り急ぎやりましょうということで、意見交換会も 4 カ所で行ったところでもございます。

正式な内容、この平成 29 年 4 月 1 日ということが決まってからの動きは、確かに性急に感じられる方がいらっしゃるかもしれませんが、我々はある意味なるべく早く、真摯に意見交換会等を開いて対話をスタートしたところでもございますし、もちろんその 4 回で対話をやめようという気はありません。ただし、この議会に関しましては、やはり市民の代表である議員の皆さんと真剣に対峙しなければいけない場でございますので、この間は私は市民との対話よりも、この議会に全力を集中しなければいけないという思いで、この議会の期間はあえて市民との対話、市民の中に入っていくようなことはいたしておりません。

そういうことで、議会が終わりましたら、また改めて市民の中に入って、先ほど申し上げましたが、一人ひとりと話をする、そのぐらいの気持ちで対話を進めていって、一人でも多くの皆さんに理解をしていただきながら、合意形成を図ってまいりたいと考えております。

大野誠一郎

中山市長が自分でおっしゃいました。馴染コミュニティセンターの中で、対話は今日がスタートです。そして、市長もお話しされましたように、4 カ所でしか、まだ開かれておりません。私に対話をすべきだ、市民参加すべきだというのは、中山市長が、これから個人的に会う人たちとの対話を進めてくださいということは、私は言うておりません。それも一つにはなるかもしれませんが、そういうもんなんですか、市長の対話と市民参加というのは。そうじゃないでしょう。まさに 4 会場の市民懇談会のように、不特定多数の市民の皆様がたくさん声をかけて、たくさん来てもらう。そして、対話と市民参加をするのが、対話と市民参加じゃないですか。

市民参加というのは、もっと積極的な形でもって、政策形成も一緒になってやるというような積極的な意味で私は捉えたいですけれども、今この話の中で、最低限その辺の対話と市民参加はやるべきじゃないでしょうか。

この覚書の中には、JRとの覚書の中には、市民との合意形成をすることになっております。市長は、いわゆる駅名改称に関する合意形成はなされたと思っているんですか。

中山一生市長

この駅名改称に関しましては、私の政策としてスタートしたことは最初にも申し上げたとおりでもございます。政策としてスタートするに当たっては、これが龍ヶ崎市の将来にとってなくてはならないことである。そして、

それに関しては私自身も多くの皆さんのご意見をいただけてきましたし、お話を、対話も進めてきたつもりでございました。そんな中で、私はおおむね市民の皆さんにとっては、この駅名改称については願いとしてある。こういう認識のもとスタートしたところでもございます。その後の対話についても、私はこのスタートした後も続けてきたわけでもございますが、その信念はむしろかたくなってきたところでもございます。

意見交換会に関しましては、本当に様々なご意見をいただいて、本当にありがたく感じているところでもございます。意見交換会というものは、そのテーマに関してご意見を伺う場所でもございます。そういう意味で、Aという事業を行います。これに関して意見交換会を行いますので、お集まりくださいと言ったときに、Aというその事業、施策が賛成な人というのはなかなか足を運んでももらえないという傾向があるのは、大野議員もご承知かと思います。そして、そんな中でやはり私が大変力強く感じたのは、あえてその中に来て、賛成意見を述べてくださった方が4会場、かなりの数いらっしゃったということでもございます。それは、それだけ市民の方の関心が高い、もちろんこれは変えてほしくないという方々の意見も含めてですが、関心が高いということに改めて感じた意見交換会の4回でございました。

先ほど大野議員がおっしゃられたように、あのような意見交換会であるかどうかは別といたしましても、一人ひとりの対話だけではなくて、やはり例えば地区とか様々なことは想定されますが、そのような形で今後も多くの人たちとの対話は続けてまいりたいと思っております。それに加えて、やはり一人ひとりという意味で、先ほど申し上げたわけでもございますが、今後も対話を続けて、一人でも多くの賛同者を得た、この事業にしていきたい、合意形成を図ってまいりたいという意味で、先ほど答弁したところでもございます。

大野誠一郎

ただいま市長は、いわゆる四つのコミュニティセンターの意見交換会は賛成が多数を占めていたというような話をしたと思います。聞き間違いじゃないですね、今、言いましたよね。言っていないですか。

私にはそう聞こえたんですけれども、少なくとも、私はこの四つのコミュニティセンターの意見交換会を通して、よくて賛成、反対が半々であるというふうに思っているんです。そして、中で、ご意見があったように、これは住民説明会じゃないか、茶番じゃないかというようなご意見もありました。それはそうでしょう。覚書が締結されている。今月の末なんだからわかりませんが、協定書も近く協定される。そういった話をどんどん進めておいて、皆さんと対話します。説明します。市民の皆さんから言えば、裏切り行為ですよ。だって、市長が言っているんですもん、私さっきから言っているように、市民の対話、市民参加を進めていくよと。何でこの問題は別なんですか。こういう賛成、反対が拮抗している状態だからこそ、こういった市民の対話、市民参加、そういったものをするべきでしょう。

私が、これはあと、市民活動日本一ということもなっていますんで、そういう形のものを市民活動として、けんけんがくぐくやって日本一になったら大変ですよ、これは。これこそ宣伝効果抜群です。龍ヶ崎というのは本当に民主的なまちなんだと、そういった問題を、つまり駅名改称のような問題をみんなが市と行政、市長と皆さん方が話し合いながら、そして、解決していったと。私はそれが一番重要だろうと思います。このまま進めていったんでは、先ほど言ったような市長が掲げた柱をおろすことになります。そうでしょう。市民の対話と市民参加なんていうこと、これから言えませんが、やってないんですから。個人的な対話が市民対話と市民参加ですもん。会合で話しすることが皆さんのお知らせです。確かに市長が言うような大宮区長会で私も出席していました。挨拶の中で市長が言っていることに、私、異議を差し挟めますか。対話をしましょうなんて、私、言えますか。皆さん、誰も言えないです。黙って聞いているだけです。ああ、市長はそ

という考え方があるのかと、対話と市民参加じゃないんですよ、こういう会合でやるやつは。

4月3日の市長が各部の長に、先ほどもちょっと話出ていましたが、ブレークダウン、平成23年度重点施策、重点事業等にかかわるブレークダウンについて通知ということになっております。これが6、7枚でなっておりますが、この中でもやはり持続可能な地域経営の推進、この中で、事業の可視化、検証性の向上に努める。事業の検証ですね。検証性の向上に努め、事業の改善、再構築に発展と、二つ目には、市民と情報を共有、対話と参加の取り組みを重ね、信頼関係を醸成、三つ目には、プロセス重視で納得性を向上となっているんです。この三つのうちの二つは、もう既に取り上げました。今から取り上げているのは事業の可視化、検証性の向上に努める、これに移りたいと思います。

恐らくこの駅名改称の目的が認知度アップ、高定住人口の増加、あるいは産業の振興、そういったものを掲げております。じゃ、市長、この駅名改称したら、どれだけ定住人口が増えるんですかと言っても、わかりませんと言うだろうと思います。そもそもふるさと龍ヶ崎戦略プランでは8万3,000人を目標にした計画でございます。つい最近のこういった政策情報誌を見ると、人口減少時代になったから、20年、30年後には5万、6万になるんですよ。先ほどもちょっと言っていましたね。一体、じゃ、定住人口、龍ヶ崎、幾らを目指しているか、何人を目指しているんですかと言っても答えられないと思います。答えられることができるんだったら、答えていただきたい。3億3,000万の駅名改称をやる。事業の可視化、これは先ほども言っているように、事業の可視化なんていうものはないですね、はっきり言ってね。私が情報公開しても何も出てこないんですから、プロセスが出てないんです。川村副市長が言ったのは、途中からの話なんです。ここでゴーサインを出したというようなプロセスしかないんです。

続いて、検証性の向上、この3億3,000万の駅名改称が果たして市長の言うような、とてつもない大きな力になるんですよ、大きな効果があるんですよと、どうやって検証するんですか。検証性の向上ということを掲げてますので、どのように検証するかをお尋ねしたいと思います。

中山一生市長

可視化、検証性というのは、総合戦略づくりのほうでも求められているところでもありますので、このようなブレークダウンをした経緯もあったということでもございます。

そんな中で、やはりこの駅名改称については、私は先ほど言った人の気持ち、はかることができない人の気持ちの問題も含めて、大変大きな効果がある。そして、もう既に今日も新聞記者2名いらっやっていますが、パブリシティー効果という意味では、既にもう大きな効果を発揮している。それだけマスコミの皆さんも注目してくださっているということ。これからは恐らく、これに関してはパブリシティー効果ははかり知れないものがあると思っております。しかし、それは副次的なもので、やはり今、大野議員がおっしゃられるような効果が、いかにこれから発揮していくかというのは、あわせて行っております佐貫駅周辺の周辺整備の基本構想または道の駅、ロータリーの改修など、改良など、様々な施策の中でこれから努力していくことによって効果が、私は何度も申し上げましたが、増幅効果が得られることであると考えております。

私ちょっと場所を忘れてしまいましたが、ある意見交換会だったか何だか、ちょっと申しわけございません。この駅名改称によって、また佐貫駅周辺の周辺整備の増幅効果で、これから人口減少社会、これから少しずつ減ってしまうかもしれないけれども、その効果で本当に一時的でもいいから人口が一時増えた、そ

のような効果が出てくれることをやはり期待しての取り組みでありますよというお話をしました。やはりそういう努力をこれから一生懸命しなければならないという意味で申し上げたところでもございます。

そうすることで、様々な効果を発揮するためには、これから周辺整備の基本構想、そのところにもやはり地元の皆さんの多くの意見をいただかなければならないと考えておりますし、そのようにして進めてまいりたいと考えております。

大野誠一郎

市長、パブリシティー効果は、ぜひとも子育て環境日本一、市民活動日本一、そういった施策で、そのパブリシティー効果を発揮させていただきたい。ふるさと龍ヶ崎戦略プランね、私いつも言っています。すごくいいんじゃないんですか。あれをやるだけでパブリシティー効果、十分ありますよ。わざわざ3億3,000万かけなくてもパブリシティー効果は十分ございます。

それから、検証性の問題ですけども、これは十二分に考えていただきたい。50年、100年先、とてつもない効果が生み出す50年先は誰もいません。

※ここで所定の時間が経過したということで、議長が質疑応答終了を宣言。

【注意事項】

ここに記載した龍ヶ崎市議会定例会における答弁内容は、掲載に向けて一部体裁等を調整しておりますが、答弁内容については公式に発表された議事録と照合した上で、忠実に再現しております。